上毛高崎連
豊貢舎雪道

印篭の蒔絵の鳥もふつゝと明てのとかな春になりけり
萩一本

志らくれ糞ハよるとも我宿を尻据しとらつあうくひす
以分堂為貞

今朝ハはやに世の中風吹そむるいろはよし鳳栖の笛竹
青葉亭竹丸

東風の誘ひに来ても志りれたにふくかゝきのすゝりてそなる
草刈笛竹

春なれハ笑ひ初る二子山こしの霞や縫あけやらん
手以良糟盛

東風のぬくゝら雀ゝあつふりきゝけ高き千代のためしめは
免耳長

三味線の糸の数ある東都曲ハ今朝ハ霞もひきそめにけり
秋田守人

茶にあてゝおもてあつく常になきやをとつく風流の友
千恵月丸

紫の霞の衣本のえしかけて透通に風の梅の香
竹葉風

手筆もゆるまき猫のかを柳されハ玉藻とまよふうくし枝
大夫旧家

咲梅のそれハ天狗のそれよりもいろ香をはなと高慢な物
配盃堂里人

梅ハまくさの深山の仙人も霞をはると春ちやせせん
成風亭春道

梅か香を鼻にかくれハ耳も又ゆかしたのむ鶯の声
元日窓松人

もえ出る汲ハきのふまて二日灸つまむ程なる野遊のいなか